

BOUT

1992
格闘技通信

BOUT
REVIEW



○セミファイナルの菅原忠幸VS八尾竜二戦。最後の5R、残された力を振り絞ってふたりは闘った
○3R。やはりキャリアで上回る菅原(右)が巧みにポイントを稼ぎ、差をつけていった
○2R。このところやや精彩を欠く八尾だが、もっと伸びてほしい選手のひとりだ



○新選手で活躍する稲葉は善戦したが、やはり山崎が力の差をみせ3対0の判定で勝ちを収めた



○いつも試合数の多いMAキックだが、なんと第14試合目となった山崎路晃(右)VS稲葉宏一戦



八尾に疲れが見えた5Rには菅原が引けを取らなかつたが、八尾が攻めどころをモノにできなかった分だけ菅原ペースになったようだ。4Rにはお互い一步も引かないヒジ打ち合戦を演じるなど闘志では引けを取らなかつたが、八尾が攻めどころをモノにできなかった分だけ菅原ペースになったようだ。八尾に疲れが見えた5Rには菅原

の危なげない勝利だった。セミファイナルの菅原忠幸(花澤)VS八尾竜二(治政館)は、八尾が倍のキャリアを積む菅原相手に冷静な試合運びで善戦した。八尾は時折右ストレートで追い詰めながら、後一步踏み込めなかつたのが惜しかった。一方の菅原は、流れが八尾に傾き始めると、すかさずジャブで八尾の出足を止め、ローと1、2のコンビネーション的確にダメージを与えていく。4Rにはお互い一步も引かないヒジ打ち合戦を演じるなど闘志では引けを取らなかつたが、八尾が攻めどころをモノにできなかった分だけ菅原ペースになったようだ。八尾に疲れが見えた5Rには菅原

第1試合からメインイベントまで全16試合という大盤振舞いの興行だったが、いざ蓋を開けてみると中だるみなくいいテンポで試合が進み、お買い得感のある大盛り定食こつこつあんの内容だった。16試合中11試合が3回戦のいわゆる新人戦だったが、印象的だっ

たのがライト級の松尾栄治(十道館)。以前は大阪のジムに所属していたが、ジムが解散したため新天地を求め移籍したとのこと。基本をしつかりマスターした安定感のある闘いぶりといい、ひたむきな闘志といい、端正なマスクといい、これからの楽しみな若手の一

人だ。十道館はラフファイトに強いというイメージがあるが、久々の本格派テクニシャンに成長するかもしれない。5回戦5試合は新旧対決の様相を呈した。山崎路晃(東金)は59+契約の特別試合で稲葉宏一(治政館)と

対戦。稲葉はまだ5戦とキャリアは浅いが4勝3KOと波に乗る。1R、山崎のコンタクトレンズが外れるアクシデントはあったものの、序盤から山崎の動きがいい。右に左にと軽快なステップワークが冴える。3Rまでは互角の闘いを見せていた稲葉も4Rから動きが鈍り始め、山崎の左ミドルからの1、2にグラツとくるシーンもあり、後ろに退がりだした。5Rには、稲葉のミドルキックを抱えるように受け、そのまま顔面パンチを狙うなどテクニクの違いを見せつけた。3-0の判定で山崎

日本バンタム級タイトルマッチ●9月19日●後楽園ホール
○稿 穂之(判定)船津勝人●

お買い得、超大盛りの16試合だが、 ダレさせなかつたレベルの高さ



○34歳の挑戦だった松葉京三（右）だが、2R終了時TKO負け
○相変わらず派手な動きをみせた寺田は、松葉の右マユ上をヒジで切った



○井上哲（上）VS田島由紀夫戦は2R井上が田島のヒタイを切りTKO勝ち



鵜のバックブローが
船津の顔面をとらえた。
満員のホールに歓声と悲鳴が



○メインイベントの鶴松之VS船津勝人戦、4R、鶴のハイが見事に決まった
○日本バンタム級タイトルマッチとなったこの一戦、船津の応援団も大活躍めかけ、パンチ、キックが決まるたびに大歓声が起こった。写真は5Rに鶴のバックブローが見事に船津をとらえた瞬間。判定は3対0だった
○表彰式でガッツポーズをとる鶴。判定は3対0だった



のローが面白いように決まり始め、さらに右ストレイトから一気にコーナーに追い詰めラッシュに出たところでゴング。菅原はもう少し早いラウンドからロー狙いに出る手もあったのだから、それができなかつたのは八尾のストレイトに十分なスピードと威力があったからだろう。3-0の判定で菅原が勝つ。

ファイナルは鶴松之（目黒）VS船津勝人（治政館）の日本バンタム級タイトルマッチ。1Rから鶴は、ジャブ、ストレイト、ボディブロー、ロー、ミドル、ハイ、ヒザと、見本市のようにいろいろな技を繰り出す。このへんはさすがチャンピオン、とにかく巧い。船津は前蹴りで鶴の前足を止めるのが精一杯という感じだ。2Rも鶴が攻勢。きれいなハイがテンブルをかすめる。船津はかろうじてガードするが、こんどはガラ空きになったボディへとパンチが入る。体を丸める船津の顔面にすかさずヒザ蹴りを合わせる。船津は左に回りながら左ストレイトで反撃。終了近くに、なかなかいい左を返した。3Rも鶴有利。船津は苦しそうにマウスピースを半分口から出し荒い息をする。しかしここから若さの本領発揮。後半戦にはボディからの1、2で逆に鶴を追い詰め、4Rには足を止めての壮絶な打ち合いを互角に渡り合う。

5Rは攻め疲れの鶴と互角か、やや船津有利で試合終了。判定は3-0で鶴のタイトル防衛に終わったが、50-49、50-48、50-48、とレフェリー・ジャッジ三者とも僅差の判定。まだ新旧交代劇が起きるには早かったが、若手の実力がベテラン勢に追いつきつつあることは確かなようだ。

（斉藤）